

風雪に耐え八十年以上! オキツウスの電信柱 (国後島)



電信柱の表面はところどころ
ひび割れし、苔むして薄い緑
色に見える部分もある
(2017年8月撮影)



オキツウス川の河口付近に建っている電信柱
(2017年8月撮影)



頭頂部はキャップ
で覆われていた



植沖墓地の標柱が建つ場所から
太平洋を望む。
と、そこにも電信柱が見えた
(2017年8月撮影)

国後島の古釜布から北へ十キロメートル余り。植古丹(ウエンコタン)を過ぎてオキツウスの川を越えたあたり。海岸沿いの道路脇に電信柱が建っている。地元のロシア人は「日本時代から使われている電信柱だ」という。

オキツウス川河口付近に三本建っているのを確認した。地元のロシア人によると、以前、電信柱にはプレートが貼ってあり、日本語で何か書かれており、頭頂部は雨の侵入を防ぐためキャップでおおわれ、番号が記されていたという。柱の表面には防蟻対策として鯨油が塗られており、明らかにロシア製では見られない特徴だという。太平洋岸に十本くらい残っているといわれる。

「北海道電気通信線路史(下)」によると、国

後島の電信線敷設工事は一八九七年(明治三十年)にノツエト崎からアトイ岬まで総延長一四五キロメートルの間に、二四一七本設置された。国後島の電信線は海底ケーブルで根室側陸揚場とつながり、択捉島・薬取村まで延びていた。

当時は島のトドマツの生木が使われたが腐食が激しく、一九〇四年(明治三十七年)～一九〇七年(明治四十年)にかけて、硫酸銅を注入した防腐材に建て替えられた。一九三五年(昭和十年)以降改築工事が行われたが、柱はほとんど傷んでいなかったと記録されている。もし、これらの電信柱が一九三五年の改築工事で建て替えられたものだとすると、八十年以上も風雪に耐え、立ち続けていることになる。